

大田川洪水避難地図

洪水ハザードマップ

浸水深の色の見方

2階の軒下までつかる程度 5.0m以上	[一戸建て] 避難場所または高台など、安全な場所へ避難してください。 [集合住宅] マンションなど高層階にお住まいの方は、避難場所へ行かなくても安全な場合もあります。
1階の軒下までつかる程度 2.0m~5.0m未満	[一戸建て] 周囲の状況に応じて、避難場所または自宅の2階へ避難して下さい。 [集合住宅] 上の階や避難場所に避難して下さい。
大人の腰までつかる程度 1.0m~2.0m未満	
大人の膝までつかる程度 0.5m~1.0m未満	
0m~0.5m未満	

洪水避難地図とは

この地図は、大田川が大雨によって増水し堤防が決壊した場合を想定し、住民の皆さまの避難に役立つよう作成したものです。

①この図は大田川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区間が浸水した場合に想定される水深や避難所等を示したものです。

②この浸水想定区域等は、大田川の河道の整備状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね100年に1回程度超える大雨が降ったことにより、大田川がはん濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

③このシミュレーションでは、想定雨量を100年に1回程度あると思われる2日間で335mmという降雨量で設定していますが、岩国市錦川で2日間の降雨が414mmと大田川流域での想定雨量をはるかに超える雨が降っており、美東町でも想定雨量をはるかに超える雨が降ることも考えられます。よって、このマップの想定浸水深を超えるケースや浸水想定区域外でも浸水が起り得る事もありますので十分注意してください。

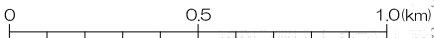
④このシミュレーションの実施にあたっては、支川のはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

- *1: 水位周知区間とは、避難判断水位（特別警戒水位）への水位の到達情報を通知及び周知する区間をいう。
- *2: はん濫シミュレーションとは、堤防が決壊したと仮定したときに、川からあふれ出した水がどのように広がっていくかを計算したものをいう。

地図の記号

	避難所
	交番
	病院
	災害時要援護者施設 (高齢者福祉施設)
	災害時要援護者施設 (幼稚園・保育園)
	主な公共施設
	雨量観測所
	水位観測所

S=1/10,000



土砂災害について



谷や斜面にたまった土・石・砂などが、豪雨や長雨による水と一緒に一気に流れ出します。速度が速く、破壊力もあるため、大きな被害をもたらします。逃げるときは、流れの方向に対して直角に逃げてください。

土石流災害イメージ図



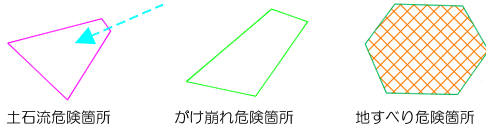
がけの地面に水がしみ込み、弱くなった斜面が突然、瞬時に崩れ落ちます。がけの近くに住民はその様子に十分注意し、危険を感じたらすぐに避難して下さい。

がけ崩れ災害イメージ図



比較的緩やかな斜面で、地面のすべりやすい面が地下水の影響などでゆっくりと動き出します。一度に広い範囲が動くため、被害も大きく、川をせき止めて洪水などを引き起こすこともあります。

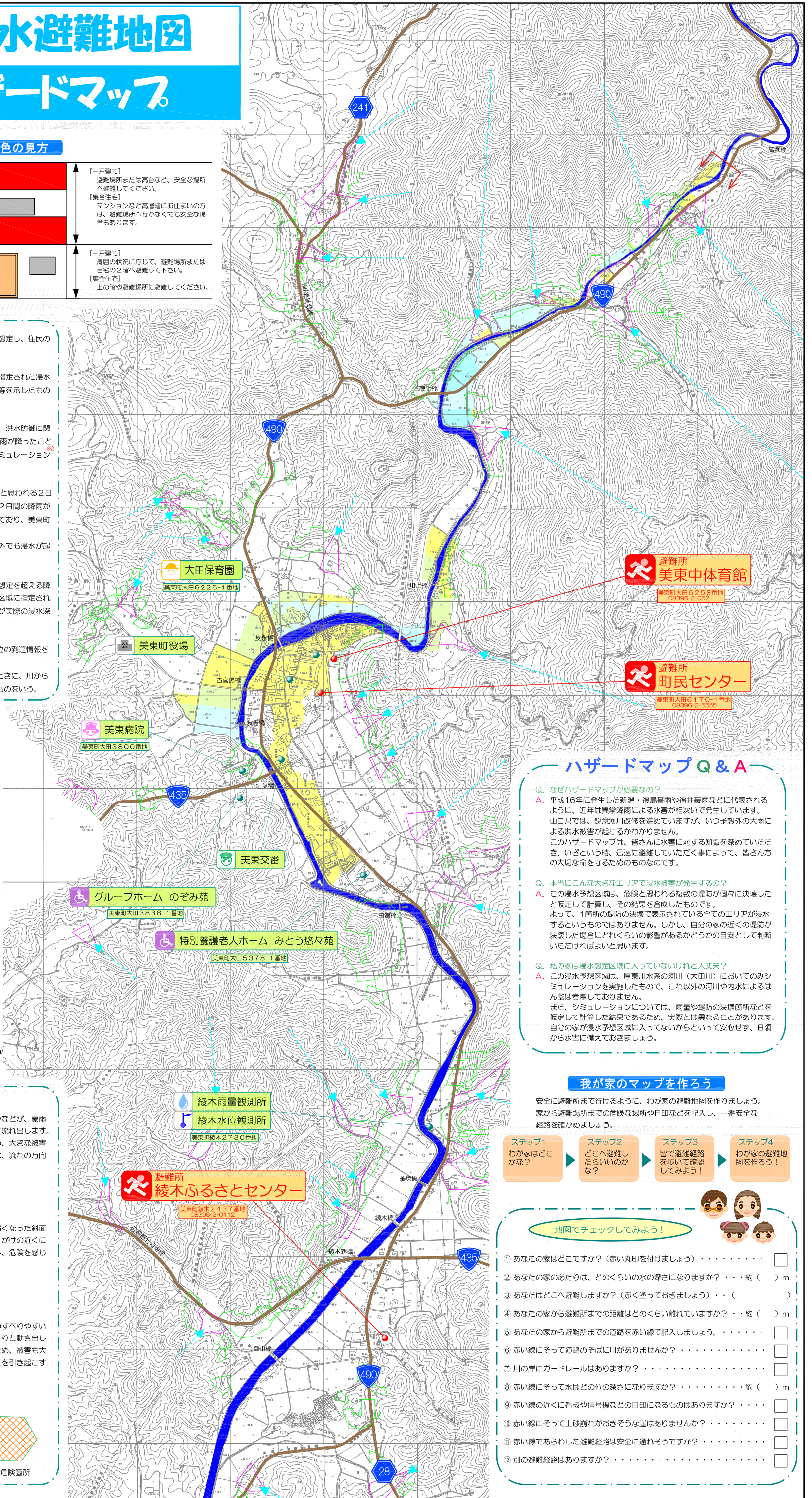
地すべり災害イメージ図



土石流危険箇所

がけ崩れ危険箇所

地すべり危険箇所



ハザードマップQ&A

- Q. なぜハザードマップが必要なの？
- A. 平成16年に発生した新潟・福島豪雨や福井豪雨などに代表されるように、近年は異常降雨による水害が相次いで発生しています。山口県では、鋭意河川改修を進めていますが、いつ予想外の大雨による洪水被害が起こるかわかりません。このハザードマップは、皆さんに水害に対する知識を深めていただき、いざという時、迅速に避難していただく事によって、皆さんの大切な命を守るためのものなのです。
- Q. 本当にこんな大きなエリアで浸水被害が発生するの？
- A. この浸水想定区域は、危険と思われる複数の堤防が個々に決壊したと仮定して計算し、その結果を合成したものです。よって、1箇所の堤防の決壊で表示されている全てのエリアが浸水するものではありません。しかし、自分の家の近くの堤防が決壊した場合にどれくらいの影響があるかどうかの目安として判断いただければよいと思います。
- Q. 私の家は浸水想定区域に入っていないけれど大丈夫？
- A. この浸水想定区域は、厚東川水系の河川（大田川）においてのみシミュレーションを実施したもので、これ以外の河川や内水によるはん濫は考慮していません。また、シミュレーションについては、雨量や堤防の決壊箇所などを仮定して計算した結果であるため、実際とは異なる場合があります。自分の家が浸水想定区域に入っていないからといって安心せず、日頃から水害に備えておきましょう。

我が家のマップを作ろう

安全に避難所まで行けるように、わが家の避難地図を作りましょう。家から避難場所までの危険な場所や目印などを記入し、一番安全な経路を確認しましょう。

- ステップ1 わが家はどこかな？
- ステップ2 どこへ避難したらいいのかな？
- ステップ3 皆で避難経路を歩いて確認してみよう！
- ステップ4 わが家の避難地図を作ろう！

地図でチェックしてみよう！

- ① あなたの家はどこですか？（赤い丸印を付けましょう）
- ② あなたの家のあたりは、どのくらいの水の深さになりますか？ 約（ ）m
- ③ あなたはどこへ避難しますか？（赤く塗っておきましょう）
- ④ あなたの家から避難所までの距離はどのくらい離れていますか？ 約（ ）m
- ⑤ あなたの家から避難所までの道路を赤い線で記入しましょう。
- ⑥ 赤い線にそって道路のそばに川がありませんか？
- ⑦ 川の岸にガードレールはありますか？
- ⑧ 赤い線にそって水はどの位の深さになりますか？ 約（ ）m
- ⑨ 赤い線の近くに看板や信号機などの目印になるものはありますか？
- ⑩ 赤い線にそって土砂崩れがおきそうな崖はありますか？
- ⑪ 赤い線であらわした避難経路は安全に通れそうですか？
- ⑫ 別の避難経路はありますか？